

平成25年度

第58回 長野県中学校連合教科研究会

特別活動

目 次

I 研究テーマ.....	1
II 研究の趣旨.....	1
III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名.....	1～2
IV 研究問題と協議内容.....	2～4
V 本年度の研究の反省と来年度の方向.....	5
VI あとがき.....	6

I 研究テーマ

生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造

～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

II 研究の趣旨

学級活動において、教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係の中で、生徒が諸課題の解決に自主的、実践的に取り組むことができるように、生徒指導の機能を活かした学級づくりが重要である。そのために学級の望ましい人間関係づくりに焦点を当てて研究をすすめる。学級づくりについて日頃の実践をもちより、日々の学級づくりに役立つ実践研究をすすめたい。

III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名

第一分科会

指導者	南信教育事務所指導主事	竹内 仁一 先生
司会者	松本市立菅野中学校教諭	丸山 剛生 先生
記録者	松本市立筑摩野中学校教諭	吉田 峻 先生
世話係	信州大学教育学部附属松本中学校	中島 章 先生
上高井 東中学校	職場体験に向けて学級目標を設定し、その目標が学級として達成できたかを、バタフライマップを使って自分の意見を視覚化し、自分の考えと友の考えを比較する場面を設定した。その結果、友のよさを認め、仲間も思いに寄り添おうとする生徒の姿が見られた。	高橋廣貴
中高 高社中学校	日常生活の場面に生きてはたらく人権感覚を身につけることを願い、生徒たちが浸り込み、自分たちの日常生活に結びついてくるような題材選定、1単位時間で扱う題材を通し、学級や学校、地域という集団での生活を振り返ったり、思いを語り、聞いたりする活動を取り入れた。	永井裕也
附属長野中学校	自己理解を深めながら主体的に学習を進めていく生徒の姿を願い、級友や教科担任と作成した「学習方法 Dデータベース」を参考に、PDCA サイクルに基づいた学習活動を位置付けた。実践しての振り返りから、「いまでしょプラン」を見直し、新たな「いまでしょプラン」を立案することができた。	小泉一輝
松本 筑摩野中学校	話し合いに積極的に参加し、自分の思いを他の生徒に伝えたり、さらに自分の考えを深めたりする生徒の姿を願い、事前に「考えメモ」を記入、明確な議題の設定、互いの考えを伝えやすい4人1班の環境作りを行った。その結果生徒自身が問題を話し合い、解決していく有効性を見出した。	坂本翔
附属松本中学校	友と思いを語り合いながら、願う集団の姿を実現していく姿を願い、生徒一人一人が学級旗のデザインを考え、そこに込めた思いを語る場を設定したり、話し合いの形態や指名計画、進め方を学級委員と共に予め計画したりして、話し合いを行った。生徒は、仲間の思いを受け止め、自らの思いを重ね、さらにより学級にしていこうという姿が見られた。	中島 章
上水内 信濃小中学校	話し合いによって、よりよい生活や人間関係を主体的に築いていこうとする生徒の姿を願った。事前の意識調査により話し合う必要感をもったり、少人数で話し合ったり、司会者と記録者、教師の出について研究した。その結果、仲間の考えに出会ったり、参考にしたりしながら、自己決定することができた。	常田浩二

IV 研究問題と協議内容

研究テーマに沿って、各校より提出されたレポートを各討議題に分けて協議しご指導いただきました。

討議題1 『(1) 学級や学校の生活づくり』について(筑摩野中、附属松本中)

(1) 討議された内容

①議題の焦点化について

- ・議題を焦点化しないと、折り合いがつかないことがある。
- ・明らかに結論ありきの議題や、生徒の願いにそっていない議題は、話し合いが深まらない。議題の提案理由を明確にすることが大切。

②互いに高め合う題材展開のありかたや話し合いの進め方について

- ・司会の生徒への事前指導が必要。意見が出すぎたり、まとめるのに困ったりするときは常に議題に立ち返るように指導した。
- ・話し合い活動を定例化する。議題は教師からあげることもある。例えば、学級の小委員会から学級目標を決めるなど。
- ・生徒の考えを書くカードを用意することで、自分の考えをまとめたり、友達の意見と比べたりすることができて有効である。

(2) ご指導いただいた内容

①議題の設定について

- ・生徒が折り合いをつけて話し合う必要を感じる場面から議題の設定を考えたのが良い。生徒の目線に立って、生徒を大事にしていた。
- ・話し合いの議題の提案理由を明確化させる。教師はねらいを明確にしておく。今回の場合は学級活動の「(1) 学級や学校の生活づくり」の「(ア) 学級や学校における生活上の諸問題の解決」である。教師が出ないことで自治力を育てた。

②話し合いの進め方について

- ・議題に段階を設けてすすめる1時間にする。たくさんの意見が出て、相手の気持ちを感じたり、自分の考えと比べたりして、最後には折り合いをつける。議題にあっているか立ち返りながら、「出す→比べる→まとめる→決める」ことを意識する。
- ・生徒が司会をするためには、事前指導をすることが大切。形だけでなく、「どうやったらまとまるか」を考えて指導する。今回の司会の子は力がついた。みんなにも力をつけてほしい。輪番にしたり、次の司会の子を模擬授業に参加させたりするのも良い。

討議題2 『(2) 適応と成長及び健康安全』と『(3) 学業と進路』について(信濃中、附属長野中)

(1) 討議された内容

①主体的に取り組む話し合い活動について

- ・生徒に役割をもたせる手立てをすることで、全員が意見を出したり、少数派意見も取り上げたりすることができる。
- ・自己決定における話し合いの「(2) 適応と成長及び健康安全」だったが、「(1) 学級や学校の生活づくり」の要素もあった。そこを意識しながら教師は進められた。ねらいが明確だと生徒の話し合いがごちゃごちゃしない。

②PDCA サイクルについて

- ・勉強方法について、自分で分析して実践していく姿が良かった。教師の準備は、模造紙を用意し、カテゴライズするだけある。

- ・生徒は「同じ悩みをもっている人がいて良かった」という感想を持ち、家庭での学習時間について見直せるようになった。

(2) ご指導いただいた内容

①目標について

- ・今回、信濃中は「(2) 適応と成長及び健康安全」、附属長野は「(3) 学業と進路」になる。(1) は基本的にどんな内容でも良いが、(2)(3)は何でも良いわけではない。教師が目標を定め、生徒が課題意識をつかむ必要がある。

②特別活動における PDCA サイクルについて

- ・生徒に課題意識があるので、必然的に C の振り返りになっている。
- ・PDCA を繰り返すことによって目標が焦点化されていく。

討議題3「特別活動と道徳、総合的な学習の時間の関連から」(東中、高社中)

(1) 討議された内容

①他教科(総合、道徳)と特別活動のすみわけについて

- ・総合と特別活動を区別するために、個人は総合、全体で考えるのは特別活動とした。実際はごちゃごちゃすることもあった。生徒には区別する意識はない。すべて職場体験で考えていた。
- ・道徳と特別活動の線引きに悩む。総合との区別と同じように、ねらいを明確にすることが大切。

②話し合い活動の方法の手立てについて

- ・バタフライマップは、友達の意見が視覚化されることで自分の考えが深まり、有効だと感じられた。
- ・KJ法は、まわりの意見を受け入れつつ話し合いを進められて良かった。

(2) ご指導いただいた内容

①他の領域との関わりについて

- ・特別活動としてのねらいを明確にすることが大切。
- ・人権教育の年間全体計画に位置づいているのが良い。特別活動の視点としてどんなことができるのかを考えることが大切。

②評価基準の観点について

- ・目標に対しての評価の基準を意識したい。例えば「～ことができる」というのは、態度なのか、決め出すことなのか。「関心意欲態度」、「思考判断実践」、「知識理解」のどれなのか明確にすると良い。

全体を通してのご指導

- ・手引書 p 33 の(1)～(3)を意識することを大切にしたい。
- ・生徒の願いや思いをもとに、教師は同じ目線に立ってねらいを定めることを大切にしたい。
- ・望ましい人間関係を目指しているので、それができる言語活動をする必要がある。

(文責者 筑摩野中学校 吉田峻)

V 本年度の反省と来年度の方向

本年度の反省

項目	内容
研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> 各校で取り組まれている研究があるので、本年度のような広いテーマでよい。
研究の内容と成果	
研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> 多くの実践が学べることは大きいですが、多すぎても消化しきれない。レポートの数は、もう少し少なくてもよいのでは。 各校の形式を優先させてもらおうと書きやすい。 形式にとらわれなく作成できるのでよい
研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> メールでの文書送付，レポート提出はよいと思う。
運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> 可能であれば，他教科の指導案も持ち帰れるとよい。 参加数もう少しあるとよい。

来年度の研究の方向

研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 特活の目標にそった研究テーマであれば，どこの学校でも取り組めるのでよいと思う。 自主的，実践的な態度を大切に。 「かかわり」は大切にしたい。 「かかわり」があいまい。 本年度と同じ方向で。
研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動において，教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係の中で，生徒が諸課題の解決に自主的，実践的に取り組むことができるように，生徒指導の機能を活かした学級づくりが重要である。そのために学級の望ましい人間関係づくりに焦点を当てて研究をすすめる。学級づくりについて日頃の実践をもちより，日々の学級づくりに役立つ実践研究をすすめたい。 本年度と同じ方向で。
研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> ある実践授業の映像を見させていただき，その後に，あるテーマに沿って討議する形もあると思います。(午前・午後で1本ずつ) 授業を生で参観していないので，細部については何も言えないこともあるので。 出来るだけ実践授業の映像を見せていただけるように呼びかける。

平成 25 年度テーマ (案) (継続)

「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」
 ～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ活動～

VI あとがき

晩秋の一日、県下各地からお集まりいただいた先生方には、実践レポートや使用した資料などをもとにして、数多くの提案や討議をしていただきました。先生方の日々の実践に基づいて生徒の具体的な姿から積極的なご意見をいただいたことで活発な討議となり、明日からの実践に役立つ大きな成果をあげることができたのではと感じています。

それぞれの学校の素晴らしい実践に学ばせていただき、「特別活動」を生徒のために構想していきたいと取り組まれていることがよくわかりました。そして、それぞれの実践から学んでいこうとする先生方の熱意が感じられました。来年度もこのような熱心な研究会にしていきたいと考えております。

終始適切で温かいご指導をいただきました、南信教育事務所指導主事 竹内仁一先生には心から御礼申し上げます。

また、レポートを隔々までお読みいただき、綿密な司会計画により研究会を実りあるものにしてくださった司会の松本市立菅野中学校 丸山剛生先生、細かく記録をとりお忙しい日程の中で多くの時間を割いて研究のまとめにご苦勞いただいた記録の松本市立筑摩野中学校 吉田峻先生、数々の実践を携え熱心に協議していただいた参会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

委員長 中島 章
副委員長 小泉 一輝